



## 笑う門には福来る

校長 武田 泰之

令和7年という新しい1年がはじまりました。保護者、地域の皆様には、旧年中は、本校の教育活動にご理解、ご協力をいただき、ありがとうございました。本年におきましても引き続きよろしく願いいたします。

さて、新学期が始まりました。子どもたちに再会して、挨拶や会話をすると、自然と笑みがこぼれ、うれしい気持ちになります。

「笑み」と言えば、人間は、生まれた後すぐに笑顔を見せると言われています。これは、「新生児微笑」といって、「笑顔を見せることで周りがさらに優しく接してくれる」という、人間（新生児）の本能的な自己防衛手段なのだそうです（諸説あり）。笑顔については医学的にも研究が進んでいます。笑顔の効能として、脳が活性化され、意欲や活力が生まれる。ストレスを緩和するはたらきがある。免疫システムのはたらきがある。痛みを軽減するはたらきがある。がん細胞やウイルスをせん滅するナチュラルキラー細胞を活発にする等があるそうです。このように、人間にとって、医学的な見地からも大切な笑顔ですが、当然、人と人とのコミュニケーションには欠かせません。笑顔でいるときは、人間の心が解放されている状態であると言われています。相手に笑顔を見せているときは、相手を受け入れる準備ができているということになるそうです。人が人と会話する時に見せる笑顔は、優しさや思いやり、相手を包み込む感情、そして、相手の役に立ちたいと思っていることなどを表しているのです。笑顔は、コミュニケーションの重要な役割を担っているのです。

毎朝、子どもたちが登校するとき、笑顔で「おはようございます」と挨拶をしてくれます。しかし、登校の時に笑顔で私に挨拶してくれた子どもたちも、一日中、笑顔ではいられない時があると思います。時には悲しい表情、怒った表情、沈んだ表情になることもあるでしょう。そんなときこそ、自分で意識して笑顔を取り戻してほしいと思っています。自分で笑顔に戻れないときは、学級の仲間や教職員等の大人の力も必要となるでしょう。笑顔でいられない子どもたちに、周囲が笑顔をつくって、その子に寄り添い、優しい雰囲気を作ってあげて笑顔になれるようにしてあげることも必要となります。心掛けることは、「楽しいから笑顔になる」時だけでなく、「笑顔でいるから楽しくなる」という時間を生み出すことだと思うのです。

「笑う門には福来る」は、「笑顔でいるから楽しくなる」ということを表しているように思います。「門」とは家や家族の意味ですが、大砂土東小学校の子どもたちにとっては、教職員などの大人たちも含まれるでしょう。学校でも家庭でも、大人がいつもにこやかに笑って過ごせば、自然と子どもたちも幸せに包まれると信じています。子どもたちが笑顔で過ごせるような環境を教職員、そして、保護者や地域の皆様で協力してつくれたら素晴らしいと思っています。

3学期の授業日数は、6年生が52日間、1年生から5年生が54日間と、たいへん短い期間となります。6年生は中学校へ、1年生から5年生は次の学年へステップアップするための学びの総まとめの期間でもあります。

また、昔から「1月は行く」、「2月は逃げる」、「3月は去る」と言われるように、この期間はあっという間に時間が過ぎ去ってしまいます。短くもありますが、1年の中でも特に大切な3学期、一人ひとりの子どもたちが笑顔で教育活動に取り組めるよう、令和7年も引き続き教職員一同「チーム大砂土東小」で力を合わせ指導に当たってまいります。保護者、地域の皆様には変わらぬご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。



令和7年1月1日 初日の出の様子  
(大砂土東小学校 屋上にて)